

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
令和3年度 第7回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和4年3月25日 午後7:05～午後8:30
- 2.開催場所 ZOOM会議
- 3.理事総数 12名
- 4.出席者数 7名（書面表決書3名）
出席者（山西哲郎、宇佐美彰朗、保原幸夫、森川貞夫、小林均、黒田伸、比嘉正樹、敬称略）
書面表決書（前河洋一、鈴木良雄、菅原由大 敬称略）
オブザーバー（進藤充 敬称略）
- 5.議長選任 議長として山西哲郎氏が選出された。

6.議事の経過の概要および議決の結果

- 第1号議案 前回理事会（2月25日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等がなかったので承認されたものとする旨報告があった。
- 第2号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として宇佐美彰朗氏と保原幸夫氏が選出された。
- 第3号議案 令和4年度事業計画案について
保原氏より、令和4年度事業計画案の提示があり、質疑応答および新規事業案について意見交換を行った。
- 「J S I Eエコノミカルランニング教室」、「熟年ランニングスクール」については継続実施する。
 - 「北海道マラソン教室」については、主催者であるランナーズサポート北海道からの要望で北海道マラソン前日のトークショーに前河副理事長が講師として行くことになった。宇佐美副理事長から、一昨年、昨年はフォームチェック&アドバイスに的を絞った講習を行ったが、今年は3年ぶりに北海道マラソンが開催されるのでマラソン完走のための鍵となる「エコノミカルランニング」全般に関する講習をやりたい旨要望があった。6回シリーズの教室の内容については、検討中ということなので提案してみることにした。
 - 「2022メルボルンマラソン」については、渡航が可能になり政府観光局からも協力金が見込めることになったので実施する。なお、将来的なことも考慮し、今年は比嘉氏にもメルボルンに行ってもらおうことになった。
 - 海外派遣のための企画・運営事業として「アラフラゲームズへの日本選手団派遣」および「トスカーナ・トレーニングキャンプジュニア合宿」については関連団体であるスポーツ庁や日本陸連との連携を視野に入れて体制構築から手がけてみることにした。
 - 「エコノミカルランニング研究会」はこの2年、コロナの影響で開催を中断しているが、「エコノミカルランニング」というランニング理論がまとまりつつあるので、論文の形にまとめられたらと考えている。

■「伴走師資格認定事業」

進藤氏から、視覚障害者の伴走をする資格として「伴走師（仮称）」の認定をする仕組み作りをして事業化できないかとの提案があった。

資格取得のための教育プログラムの策定や、認定メリットなどを盛り込んだ企画書の作成ができた時点で進め方の議論をしようということになった。

■「アスリートのセカンドキャリアセミナー」

黒田氏から、日ハムを引退した斎藤佑樹氏やスピードスケート金メダリストの清水宏保氏などがセカンドキャリアに関する活動（事業）をしているので、それらに関連したセミナーが開催できないかとの提案があった。この件についても、趣旨、開催時期、場所、収支予算等を盛り込んだ企画書を作成した時点で議論をしようということになった。

第6号議案 その他

■次回理事会について

4月22日(金)19時～20時30分に開催することとなった。

以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後8時35分議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和4年3月25日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長

山西 哲郎 

議事録署名人

宇佐美 彰朗 

議事録署名人

保原 幸夫 